

● 正副議長の選出と各委員会委員の選任

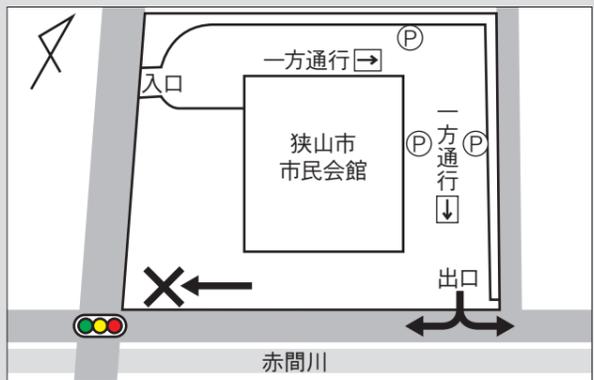
5月12日(火)狭山市議会臨時会で、正副議長、議会運営委員会・各常任委員会委員が決定しました。(敬称略)

- 議長 磯野和夫 副議長 新良守克
- ◆議会運営委員会  
委員長 町田昌弘 副委員長 齋藤誠  
委員 金子広和、土方隆司、内藤光雄、三浦和也、太田博希、大沢えみ子
- ◆総務経済委員会  
委員長 太田博希 副委員長 綿貫伸子  
委員 須藤梓、高橋ブラクソン久美子、金子広和、加賀谷勉、猪股嘉直、田村秀二
- ◆文教厚生委員会  
委員長 内藤光雄 副委員長 笹本英輔  
委員 矢馳一郎、三浦和也、大沢えみ子、町田昌弘、磯野和夫
- ◆建設環境委員会  
委員長 土方隆司 副委員長 西塚和音  
委員 新良守克、望月高志、中村正義、大島政教、齋藤誠

問合せ議会事務局へ内線3312

● 市民会館の出口が変更になりました

昨年7月から市民会館周辺で行っていた道路工事の一部が完了しました。市民会館南側赤間川沿いの道路が拡幅されたことに伴い、市民会館の駐車場出口を従来の西側信号寄りから、南側に変更しました。



問合せ市民生活課へ内線2513

市の財源を使って、無料化することはありません

狭山環状有料道路のここ・れ・から

狭山市の中心を流れる母なる川「入間川」。この入間川にかかる5番めの橋として昭和62年に誕生したのが狭山大橋です。狭山環状有料道路は、この橋を含む総延長1.8kmの区間で、埼玉県道路公社が建設し管理する県道です。通行料金は、普通車が150円、大型車Iは280円、大型車IIは600円、軽車両等は20円で、一日平均4千台以上の車両が利用しています。今月は、狭山環状有料道路の無料化の時期と、無料化に向けた市の取り組みをお知らせします。

● 無料開放は6年後

狭山環状有料道路の料金徴収期間は平成33年7月末まで。この期間が過ぎれば、無料開放される予定です。これより早く無料化する

場合、未償還金32億5千万円(平成25年度末現在)の返済が条件になります。

無料化を早めるためには、誰かが償還金を返済しなければならぬのです。

● 無料化に市の財源を使うことはありません

県は、有料道路制度の主旨から、「利用する人が負担することが本来の姿であり、道路公社と連携し



利用者拡大に努める」としています。市も同様の考えで、広域を結ぶ県道であることから市民以外の利用者も多いと考えられるうえで、将来的にも県が管理していく道路でもあります。

このような理由から、市の大切な財源を使って無料化することは、

考えていません。

● 県から「市が負担すれば無料化する」という提示はあったのか

前述の県の見解からも分かるように、一部の時間帯であっても、無料化に対する正式な提示を受けたことはありません。

● なぜ有料なのか

狭山大橋建設に着手した昭和56年当時は、上流から豊水橋、本富士見橋、新富士見橋及び昭代橋の4橋しかなく、このうち本富士見橋と昭代橋の2橋については、北から南に向かう一方通行でした。整備途上の道路環境は、朝夕の通勤時間帯を中心に慢性的な渋滞を発生させていました。



昭和62年3月の開通式の様子

● 今後の対応

無料化されることにより、経済活動の活性化や生活の利便性の向上も期待されます。今後、市の大切な財源を使うことなく、一日も早い無料化の実現に向けて、引き続き、埼玉県に要望してまいります。

問合せ街路整備課へ

内線2218

市長の主な動き

- 5/8...県西部地域まちづくり協議会定例総会
- 5/10...すこやか推進員委嘱状交付式
- 5/12...市議会臨時会
- 5/14...固定資産評価委員、監査委員、農業委員辞令交付式
- 5/15・28...定例庁議
- 5/18...不老川流域対策推進協議会総会
- 5/22...情報公開及び個人情報保護審査会委員委嘱状交付式
- 5/25...総合教育会議
- 5/26...交通安全対策協議会常任委員会・総会
- 5/27...広域飯能斎場組合議会臨時会
- 5/29...埼玉西部消防組合議会臨時会
- 5/30...市内小学校運動会

市長随想

114



狭山市長 仲川幸成 似顔絵・花倉正喜氏

子どもの頃を思い浮かべて

入曾で農家の長男として生まれた私は、その日から跡取り息子として育てられました。

物心ついた戦後間もない頃、住み込みの雇人や近所の人と一緒に家族も早朝から畑で働き、農繁期は夜なべの連続でした。小学生の頃は、飯炊きやうどん茹で、近所の魚屋や惣菜屋など

への買い出しも私の仕事でした。

中学生になってからは、自転車が入間川商店街にお使いです。日用品や荒物(ほうぎ、バケツなど)、洋品、種苗など、メモを持たされ、馴染み店を廻りました。

中学を卒業すると、学校から早く帰って農作業を手伝えるからと、親の決めた豊岡実業高校(現豊岡高校)に進学しました。朝、「今日は何時に帰る」と約束して登校し、帰宅後は着替えて畑仕事でした。それだけ人手不足は深刻でした。

こうした経験は、私だけではなく、戦前生まれの人達の多くは、家のため、家族のためと必死に家事や子守り、仕事の手伝い、仕送りなどされたと思います。豊かな社会になった今日、家族の役割も変化しています。あの厳しい時代を過ごしてきた私達は、人一倍、追憶にふけります。